

1. 2 省エネチューニングの意義

建物の省エネルギー化の推進には、建物設備のライフサイクル視点でのハード見直しと、運用オペレーションという視点でのソフト見直しとの両面が必要となります。「省エネチューニング」は、建物を最も知っている現場の運用管理者が、その実務の中心となるので、すぐにでもできる活動であり、現場の知見やノウハウを十分に活用することができる、最も効果的な省エネルギー活動といえます。

(図 1. 2. 1, 図 1. 2. 2)

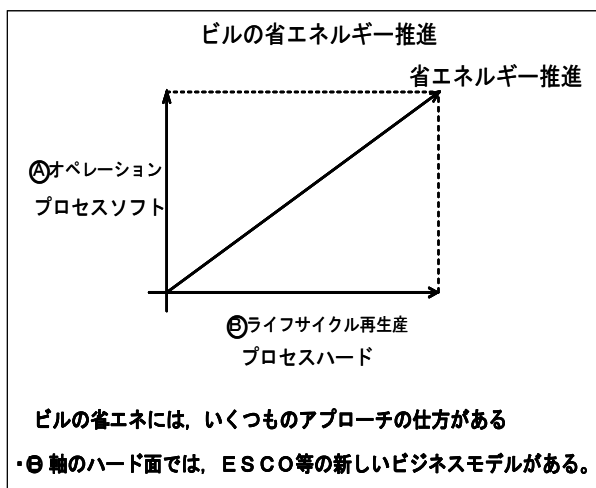


図 1. 2. 1 ビルの省エネルギー推進

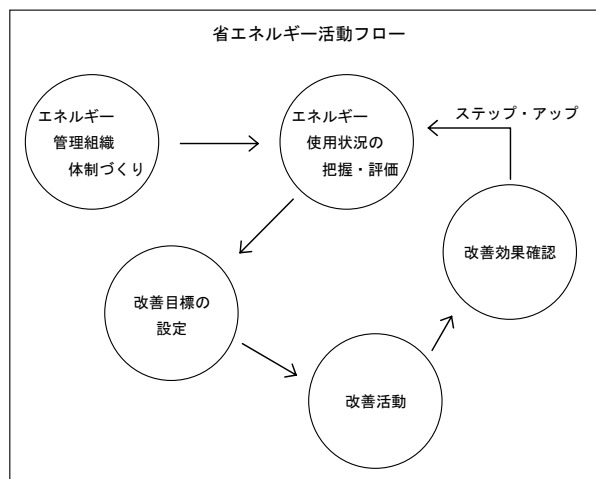


図 1. 2. 2 省エネルギー活動フロー

1. 3 省エネチューニングの進め方

建物の省エネは、エネルギー管理組織の体制づくりから始まり、エネルギーの使用状況を把握・評価し、改善目標を設定し改善活動を実施し、その効果を確認する流れで実施されます。この省エネルギー活動は、建物の事業者の責任で推進され継続的に活動することが求められています。

これらの活動の中で、「省エネチューニング」は現場を主体にして運用改善や設備の見直しを行うことで省エネルギー化を実現する改善活動と位置づけられます。

省エネチューニングを進めるにあたり、当該建物のエネルギー消費量の実態把握が重要です。(財)省エネルギーセンターで開発した「原単位管理ツール」を利用することで、対象となる建物の特性を知るのと同時に、これから実施しようとするチューニングに極めて強力な手段になります。省エネチューニングは、その活動の手順やステップにこだわることなく、採用可能なチューニング項目を本ガイドブックの事例集の中から選定し、実行して効果を上げていくことが大切です。

建物の省エネルギーを推進するためには、エネルギー管理組織を構築し、

- ① エネルギー管理目標の設定 (Plan),
- ② 省エネルギー対策の実施 (Do),
- ③ 省エネルギー効果の検証 (Check),
- ④ 計画の見直し (Action),

を継続的に実施すること、すなわち、図 1.2.3 に示す PDCA サイクルを回すことが重要です。そのためには、エネルギー消費量の実績を管理しエネルギー消費実態や設備システムの運用実態を十分に把握しておくことが不可欠となります。

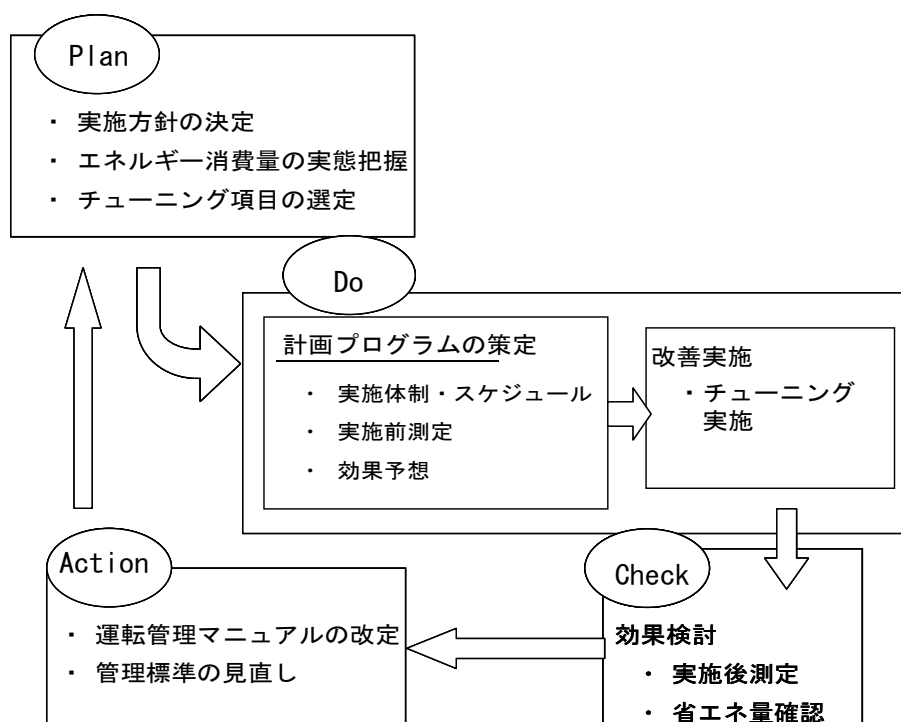


図 1.2.3 PDCA サイクル